

リュック・ボルタンスキー 道徳判断のしかた

告発／正義／愛／苦しみと資本主義の精神

企業不正を告発する、何の計算もなく愛を表明する、不公平なことに正義を主張する、テレビの画面に流れる世界の悲惨に苦しむ、などなど。批判や共感を働かせず。

私たちは道徳判断を批判判断をもって日々なしている。

そこに働く正当化のよりどころになっている規範型を、ボルタンスキーは政治思想と実際の歴史的な現れから六つのモデルで示し、さらに資本主義の動態的な精神として七つ明示した。

言い争い・衝突・論争において正当化を働かせて社会行為をいとなむ私たちは、力関係や利害関係だけで生きているのではない。支配だ搾取だと、暴力のメタ批判の粗野な社会科学思考に対して、出来事の事実のなかで、繊細に物事を同等性と序列の作用で、自分を正当化している通常人の能力を浮きだたせる、世界第一線の考察を、自分のものに……。

偉大さのエコノミーと正当化

社会批判と道徳感覚

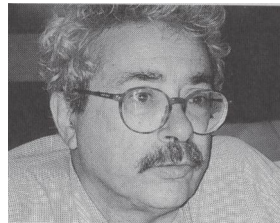
道徳感覚の規範になる〈シテ cite〉とは何か？

正当化の場所

「正当化」をめぐる道徳判断



192 ページ 新書
定価 1430 円 (本体+10%税)
ISBN 978-4-910131-14-6
C0230



リュック・ボルタンスキー (Luc Boltanski)

1940年生まれ。フランスを代表する世界第一線の社会学者。パリの社会科学高等研究院でブルデュールと協働しながらもそこから離反し、独自の社会学考察の地平を開く。フランス社会学の新プラグマティック学派的リーダーとして『政治的・道徳的 sociology 集団』GSPM を 1984 年に創設。外部から支配や暴力を読みとるメタ批判理論に対して、行為当事者の口論・論争をへて正当化の道徳判断をなしながら妥協や調整をなしていくプラグマチックな仕方を探究した。『正当化の理論』新曜社、「資本主義の新精神」上下、ナカニシヤ、『胎児の条件』法政大学出版局、『偉大さのエコノミーと愛』EHESC 出版局、など。

そんな自分を知るには、「偉大さのエコノミー」「シテ」といった概念から考えること。矛盾衝突・論争が暴力沙汰にならないよう、能力、判断、正義の正当化を働かせての試練から共通善をみつけて脱しようとする。そこに、どんな規範秩序を働かせているのだろうか？「偉大さ」の〈シテ〉なる考えから、いまや、世界ナンバーワンと言われるフランスの社会学者、ボルタンスキーが明らかにする。

既刊新書

赤版 1430 円+税

001 山本哲士 甦えれ 資本経済の力

文化資本と知的資本

002 矢野雅文 科学資本のパラダイムシフト

パンデミック後の世界

003 松下和夫 気候危機とコロナ禍

緑の復興から脱炭素社会へ

004 吉本隆明 超資本主義の現在

005 浅利 誠 ジャック・デリダとの交歓

SONDEOS 黄版 (単行本の新書化)

山本哲士著作撰

101 哲学する日本

非分離 / 述語制 / 場所 / 非自己

544 頁 2420 円

102 学校・医療・交通の神話

現代産業社会批判—コンピュアルな世界へ

384 頁 2090 円

書店名

部数

注文は J R C C へ fax.03-3294-2177

文化科学高等研究院出版局 tel.03-3580-7784 fax.03-5730-6084

道徳判断のしかた 告発／正義／愛／苦しみと資本主義の精神

リュック・ボルタンスキー

定価 1430 円

ISBN 978-4-910131-14-6 C0230 ¥1300F